

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第4項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成26年12月15日

【四半期会計期間】 第109期第3四半期（自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日）

【会社名】 虹技株式会社

【英訳名】 KOGI CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 堀田 一之

【本店の所在の場所】 兵庫県姫路市大津区勘兵衛町4丁目1番地

【電話番号】 姫路(079)236 - 3221

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 谷岡 宗

【最寄りの連絡場所】 兵庫県姫路市大津区勘兵衛町4丁目1番地

【電話番号】 姫路(079)236 - 3221

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 谷岡 宗

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所

(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

当社において不適切な会計処理がなされた可能性があることについて、当社と利害関係のない専門家で構成される第三者委員会を設置し調査を進めてまいりました。平成26年12月12日、第三者委員会から調査結果の報告を受け、連結財務諸表の修正等、必要と認められる訂正を行うことといたしました。

これらの決算訂正により、当社が平成26年2月13日に提出いたしました第109期第3四半期(自平成25年10月1日至平成25年12月31日)に係る四半期報告書の一部を訂正する必要が生じたので、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

なお、訂正後の四半期連結財務諸表につきましては、新日本有限責任監査法人により四半期レビューを受けており、その四半期レビュー報告書を添付しております。

また、四半期連結財務諸表の記載内容に係る訂正箇所については、XBRLの修正も行いましたので併せて修正後のXBRL形式のデータ式(表示情報ファイルを含む)を提出いたします。

2【訂正事項】

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移

第2 事業の状況

3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

第4 経理の状況

1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

四半期連結包括利益計算書

注記事項

(セグメント情報等)

(1株当たり情報)

3【訂正箇所】

訂正箇所は_____線を付して表示しております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(訂正前)

| 回次 | 第108期 第3四半期連結 累計期間 | 第109期 第3四半期連結 累計期間 | 第108期 |
|------------------------------|------------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| 会計期間 | 自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日 | 自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日 | 自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日 |
| 売上高 (百万円) | 12,685 | 13,371 | 17,245 |
| 経常利益 (百万円) | 344 | 446 | 579 |
| 四半期(当期)純利益 (百万円) | 157 | 197 | 284 |
| 四半期包括利益又は包括利益 (百万円) | 201 | 745 | 715 |
| 純資産額 (百万円) | 8,866 | 9,932 | 9,380 |
| 総資産額 (百万円) | 19,979 | 22,019 | 20,439 |
| 1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円) | 4.78 | 5.99 | 8.60 |
| 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円) | | | |
| 自己資本比率 (%) | 40.3 | 39.6 | 41.2 |

| 回次 | 第108期 第3四半期連結 会計期間 | 第109期 第3四半期連結 会計期間 |
|-------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 会計期間 | 自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日 | 自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日 |
| 1株当たり四半期純利益金額 (円) | 2.61 | 3.20 |

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(訂正後)

| 回次 | 第108期 第3四半期連結 累計期間 | 第109期 第3四半期連結 累計期間 | 第108期 |
|------------------------------|------------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| 会計期間 | 自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日 | 自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日 | 自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日 |
| 売上高 (百万円) | 12,685 | 13,371 | 17,245 |
| 経常利益 (百万円) | 193 | 466 | 412 |
| 四半期(当期)純利益 (百万円) | 64 | 209 | 180 |
| 四半期包括利益又は包括利益 (百万円) | 107 | 757 | 612 |
| 純資産額 (百万円) | 8,650 | 9,719 | 9,155 |
| 総資産額 (百万円) | 19,764 | 21,806 | 20,213 |
| 1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円) | 1.95 | 6.36 | 5.47 |
| 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円) | | | |
| 自己資本比率 (%) | 39.6 | 39.0 | 40.6 |

| 回次 | 第108期 第3四半期連結 会計期間 | 第109期 第3四半期連結 会計期間 |
|-------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 会計期間 | 自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日 | 自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日 |
| 1株当たり四半期純利益金額 (円) | 1.91 | 2.86 |

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

第2【事業の状況】

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(訂正前)

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府・日銀による金融・経済政策、さらに米国を中心とする世界経済の回復などにより、閉塞感に包まれてきた経済状況に薄日が差し、好業績を示している業界がある一方、未だ恩恵を受けきれていない業界もあり、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のもとで当社グループは、新たに第4次3カ年計画(2013～2015年度)をスタートさせ、『品質ナンバーワン』を核として、『技術開発への取り組みの強化』、『人材の育成』、『財務体質の更なる強化』の4つの基本方針に基づく重要課題の達成に向けた取組みを推し進め、国内事業の基盤を固め、世界的な競争に対応できる企業体質の構築に努めてまいりました。

当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高 133億7千1百万円(前年同期比 5.4%増)、営業利益 4億4千5百万円(前年同期比 36.2%増)、経常利益 4億4千6百万円(前年同期比 29.6%増)、四半期純利益 1億9千7百万円(前年同期比 25.3%増)となりました。

なお、上記の経常利益には、退職給付会計の数理計算上の差異の償却に係る信託株式の時価変動による損益(は損失)を、1億9千万円(前年同期 4億8百万円)、同じく四半期純利益には、1億1千7百万円(前年同期 2億5千3百万円)を含んでおります。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

鋳物関連事業

鋳型は、大型鍛造鋼塊用鋳型の需要低迷が続き、売上高は前年同期を下回りました。ロールは、国内高炉・電炉各社の生産は回復し、円安による輸出環境の改善により国内外主要顧客の需要低迷は徐々に持ち直しつつあるものの、前年同期にあった海外向け大型物件の売上減があったため、売上高は前年同期を下回りました。自動車用プレス金型鋳物は、国内金型需要は依然低位に推移しており、売上高は前年同期並みとなりました。大型産業機械用鋳物は、平成24年秋口以降急速に落ち込んだ工作機械業界が、円安への転換を機に徐々に回復し、売上高は前年同期を上回りました。小型鋳物は、機械鋳物類が引き続き堅調に推移し、主力である新型人孔鉄蓋や次世代型高品位鉄蓋などの下水道鉄蓋の拡販や電線共同溝用鉄蓋の需要増により、売上高は前年同期を上回りました。デンスパーは、油圧機器及び小型建設機械などの国内産業機械向け需要が堅調に推移し、台湾向けを中心とした輸出の回復もあり、売上高は前年同期を上回りました。

中国国内で自動車用プレス金型鋳物の生産・販売を手がける天津虹岡鋳鋼有限公司は、現地自動車メーカーのモデルチェンジなどによる需要により堅調に推移し、為替の影響もあり、売上高は前年同期を上回りました。

この結果、当事業の売上高は、110億5千2百万円(前年同期比 3.5%増)と前年同期並みで推移しましたが、損益面では、電力料金等のコストアップが響き、経常利益 5億7百万円(前年同期比 31.1%減)となりました。

その他の事業

送風機は、国内設備投資の縮小傾向が続く厳しい受注環境のもと、大型品市場への参入、新規耐熱送風機顧客の開拓、高効率ファンの拡大等に努め、売上高は前年同期を上回りました。環境・省エネ商品のトランスベクターは、市場が不透明で前年同期のような活発な動きが無く、売上高は前年同期を下回りました。KCメタルファイバーは、国内向け及び北米向けの摩擦材需要に支えられ、売上高は前年同期を上回りました。KCカーボンセラミックスは、主要顧客先であるアルミ、銅、ガラス業界向け需要が持ち直し、売上高は前年同期を上回りました。環境装置事業は、都市ゴミ焼却炉延命化工事の大口物件の売上により、売上高は前年同期を上回りました。また、平成25年4月から稼働を始めたソーラー事業も順調に推移いたしました。

この結果、当事業の売上高は、23億1千9百万円（前年同期比 15.7%増）、経常利益 2億2千8百万円（前年同期比 16.1%増）となりました。

なお、上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は、129億8千3百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億6千4百万円増加いたしました。これは、主として現金及び預金が2億9千4百万円、商品及び製品が1億4千9百万円及び仕掛品が1億3千万円それぞれ増加したことなどによります。

固定資産は、90億3千6百万円となり、前連結会計年度末に比べ10億1千6百万円増加いたしました。これは、主として有形固定資産が5億3千1百万円、投資その他の資産が4億8千1百万円それぞれ増加したことなどによります。この結果、総資産は、220億1千9百万円となり、前連結会計年度末に比べ15億8千万円増加いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は、83億9千3百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億9千2百万円増加いたしました。これは、主として支払手形及び買掛金が5億6百万円増加したことなどによります。

固定負債は、36億9千3百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億3千5百万円増加いたしました。これは、主として長期借入金が7億6千2百万円増加したことなどによります。

この結果、負債合計は、120億8千6百万円となり、前連結会計年度末に比べ10億2千8百万円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、99億3千2百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億5千2百万円増加いたしました。これは主として為替レートの変動により為替換算調整勘定が1億6千2百万円及び少数株主持分が2億6千3百万円それぞれ増加したことなどによります。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の41.2%から39.6%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は5千2百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 主要な設備

前連結会計年度末において計画中であった重要な設備の新設について、当第3四半期連結累計期間に完成したものは次のとおりです。

| 会社名 | 事業所名 (所在地) | セグメントの名称 | 設備の内容 | 完成年月 |
|------|-------------------|----------|---------|---------|
| 提出会社 | 姫路東工場 (兵庫県姫路市) | その他 | 太陽光発電設備 | 平成25年4月 |

当第3四半期連結累計期間において、新たに確定した重要な設備の新設計画はありません。

なお、経常的な設備更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当社グループを取り巻く事業環境は、鋳物事業市場の成熟化が進むなか、競争の激化、事業環境の急激な変化、先行き不透明な経済状況など、依然として予断を許さない状況が続くものと予想されます。このような環境のもと、当社グループは、第4次3カ年計画の諸施策を着実に実行し、強固な企業体質の実現と企業価値の向上に努めてまいります。

(訂正後)

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府・日銀による金融・経済政策、さらに米国を中心とする世界経済の回復などにより、閉塞感に包まれてきた経済状況に薄日が差し、好業績を示している業界がある一方、未だ恩恵を受けきれていない業界もあり、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のもとで当社グループは、新たに第4次3カ年計画(2013～2015年度)をスタートさせ、『品質ナンバーワン』を核として、『技術開発への取り組みの強化』、『人材の育成』、『財務体質の更なる強化』の4つの基本方針に基づく重要課題の達成に向けた取組みを推し進め、国内事業の基盤を固め、世界的な競争に対応できる企業体質の構築に努めてまいりました。

当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高 133億7千1百万円(前年同期比 5.4%増)、営業利益 4億6千5百万円(前年同期比 164.6%増)、経常利益 4億6千6百万円(前年同期比 141.4%増)、四半期純利益 2億9百万円(前年同期比 226.7%増)となりました。

なお、上記の経常利益には、退職給付会計の数理計算上の差異の償却に係る信託株式の時価変動による損益(は損失)を、1億8千3百万円(前年同期 4億1千6百万円)、同じく四半期純利益には、1億1千3百万円(前年同期 2億5千8百万円)を含んでおります。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

鋳物関連事業

鋳型は、大型鍛造鋼塊用鋳型の需要低迷が続き、売上高は前年同期を下回りました。ロールは、国内高炉・電炉各社の生産は回復し、円安による輸出環境の改善により国内外主要顧客の需要低迷は徐々に持ち直しつつあるものの、前年同期にあった海外向け大型物件の売上減があったため、売上高は前年同期を下回りました。自動車用プレス金型鋳物は、国内金型需要は依然低位に推移しており、売上高は前年同期並みとなりました。大型産業機械用鋳物は、平成24年秋口以降急速に落ち込んだ工作機械業界が、円安への転換を機に徐々に回復し、売上高は前年同期を上回りました。小型鋳物は、機械鋳物類が引き続き堅調に推移し、主力である新型人孔鉄蓋や次世代型高品位鉄蓋などの下水道鉄蓋の拡販や電線共同溝用鉄蓋の需要増により、売上高は前年同期を上回りました。デンスパーは、油圧機器及び小型建設機械などの国内産業機械向け需要が堅調に推移し、台湾向けを中心とした輸出の回復もあり、売上高は前年同期を上回りました。

中国国内で自動車用プレス金型鋳物の生産・販売を手がける天津虹岡鋳鋼有限公司は、現地自動車メーカーのモデルチェンジなどによる需要により堅調に推移し、為替の影響もあり、売上高は前年同期を上回りました。

この結果、当事業の売上高は、110億5千2百万円(前年同期比 3.5%増)と前年同期並みで推移しましたが、損益面では、電力料金等のコストアップが響き、経常利益 5億2千万円(前年同期比 12.4%減)となりました。

その他の事業

送風機は、国内設備投資の縮小傾向が続く厳しい受注環境のもと、大型品市場への参入、新規耐熱送風機顧客の開拓、高効率ファンの拡大等に努め、売上高は前年同期を上回りました。環境・省エネ商品のトランスベクターは、市場が不透明で前年同期のような活発な動きが無く、売上高は前年同期を下回りました。KCメタルファイバーは、国内向け及び北米向けの摩擦材需要に支えられ、売上高は前年同期を上回りました。KCカーボンセラミックスは、主要顧客先であるアルミ、銅、ガラス業界向け需要が持ち直し、売上高は前年同期を上回りました。環境装置事業は、都市ゴミ焼却炉延命化工事の大口物件の売上により、売上高は前年同期を上回りました。また、平成25年4月から稼働を始めたソーラー事業も順調に推移いたしました。

この結果、当事業の売上高は、23億1千9百万円（前年同期比 15.7%増）、経常利益 2億2千8百万円（前年同期比 16.1%増）となりました。

なお、上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は、127億7千万円となり、前連結会計年度末に比べ5億7千6百万円増加いたしました。これは、主として現金及び預金が2億9千4百万円、仕掛品が3億2千万円それぞれ増加したことなどによります。

固定資産は、90億3千6百万円となり、前連結会計年度末に比べ10億1千6百万円増加いたしました。これは、主として有形固定資産が5億3千1百万円、投資その他の資産が4億8千1百万円それぞれ増加したことなどによります。この結果、総資産は、218億6百万円となり、前連結会計年度末に比べ15億9千2百万円増加いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は、83億9千3百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億9千2百万円増加いたしました。これは、主として支払手形及び買掛金が5億6百万円増加したことなどによります。

固定負債は、36億9千3百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億3千5百万円増加いたしました。これは、主として長期借入金が7億6千2百万円増加したことなどによります。

この結果、負債合計は、120億8千6百万円となり、前連結会計年度末に比べ10億2千8百万円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、97億1千9百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億6千4百万円増加いたしました。これは主として為替レートの変動により為替換算調整勘定が1億6千2百万円及び少数株主持分が2億6千3百万円それぞれ増加したことなどによります。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の40.6%から39.0%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は5千2百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 主要な設備

前連結会計年度末において計画中であった重要な設備の新設について、当第3四半期連結累計期間に完成したものは次のとおりです。

| 会社名 | 事業所名 (所在地) | セグメントの名称 | 設備の内容 | 完成年月 |
|------|-------------------|----------|---------|---------|
| 提出会社 | 姫路東工場 (兵庫県姫路市) | その他 | 太陽光発電設備 | 平成25年4月 |

当第3四半期連結累計期間において、新たに確定した重要な設備の新設計画はありません。

なお、経常的な設備更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当社グループを取り巻く事業環境は、鋳物事業市場の成熟化が進むなか、競争の激化、事業環境の急激な変化、先行き不透明な経済状況など、依然として予断を許さない状況が続くものと予想されます。このような環境のもと、当社グループは、第4次3カ年計画の諸施策を着実に実行し、強固な企業体質の実現と企業価値の向上に努めてまいります。

第4【経理の状況】

(訂正前)

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

(訂正後)

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

また、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出しておりますが、訂正後の四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受け、改めて四半期レビュー報告書を受領しております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(訂正前)

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成25年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 3,003 | 3,298 |
| 受取手形及び売掛金 | 4 5,942 | 4 5,976 |
| 有価証券 | 187 | - |
| 商品及び製品 | 1,340 | 1,490 |
| 仕掛品 | 868 | 999 |
| 原材料及び貯蔵品 | 848 | 904 |
| 繰延税金資産 | 83 | 65 |
| その他 | 166 | 284 |
| 貸倒引当金 | 21 | 36 |
| 流動資産合計 | 12,419 | 12,983 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 1,373 | 1,601 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 2,116 | 2,539 |
| 土地 | 795 | 795 |
| その他(純額) | 997 | 877 |
| 有形固定資産合計 | 5,283 | 5,814 |
| 無形固定資産 | 14 | 17 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 1,263 | 2,228 |
| 前払年金費用 | 1,327 | 404 |
| その他 | 131 | 571 |
| 貸倒引当金 | 0 | 0 |
| 投資その他の資産合計 | 2,722 | 3,203 |
| 固定資産合計 | 8,020 | 9,036 |
| 資産合計 | 20,439 | 22,019 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成25年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 3,053 | 3,560 |
| 短期借入金 | 3 2,537 | 3 2,719 |
| 未払法人税等 | 212 | 161 |
| 賞与引当金 | 110 | 82 |
| その他 | 1,986 | 1,870 |
| 流動負債合計 | 7,900 | 8,393 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 90 | 60 |
| 長期借入金 | 2,616 | 3,379 |
| 繰延税金負債 | 299 | 101 |
| 未払役員退職慰労金 | 63 | 50 |
| 退職給付引当金 | 79 | 90 |
| 環境対策引当金 | 6 | 3 |
| その他 | 2 | 9 |
| 固定負債合計 | 3,158 | 3,693 |
| 負債合計 | 11,058 | 12,086 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 2,002 | 2,002 |
| 資本剰余金 | 587 | 587 |
| 利益剰余金 | 5,556 | 5,588 |
| 自己株式 | 67 | 68 |
| 株主資本合計 | 8,078 | 8,110 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 318 | 421 |
| 繰延ヘッジ損益 | 9 | 18 |
| 為替換算調整勘定 | 38 | 201 |
| その他の包括利益累計額合計 | 347 | 604 |
| 新株予約権 | 5 | 5 |
| 少数株主持分 | 948 | 1,211 |
| 純資産合計 | 9,380 | 9,932 |
| 負債純資産合計 | 20,439 | 22,019 |

(訂正後)

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成25年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 3,003 | 3,298 |
| 受取手形及び売掛金 | 4 5,942 | 4 5,976 |
| 有価証券 | 187 | - |
| 商品及び製品 | 1,020 | 1,016 |
| 仕掛品 | 826 | 1,147 |
| 原材料及び貯蔵品 | 836 | 877 |
| 繰延税金資産 | 232 | 206 |
| その他 | 166 | 284 |
| 貸倒引当金 | 21 | 36 |
| 流動資産合計 | 12,193 | 12,770 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 1,373 | 1,601 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 2,116 | 2,539 |
| 土地 | 795 | 795 |
| その他(純額) | 997 | 877 |
| 有形固定資産合計 | 5,283 | 5,814 |
| 無形固定資産 | 14 | 17 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 1,263 | 2,228 |
| 前払年金費用 | 1,327 | 404 |
| その他 | 131 | 571 |
| 貸倒引当金 | 0 | 0 |
| 投資その他の資産合計 | 2,722 | 3,203 |
| 固定資産合計 | 8,020 | 9,036 |
| 資産合計 | 20,213 | 21,806 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成25年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 3,053 | 3,560 |
| 短期借入金 | 3 2,537 | 3 2,719 |
| 未払法人税等 | 212 | 161 |
| 賞与引当金 | 110 | 82 |
| その他 | 1,986 | 1,870 |
| 流動負債合計 | 7,900 | 8,393 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 90 | 60 |
| 長期借入金 | 2,616 | 3,379 |
| 繰延税金負債 | 299 | 101 |
| 未払役員退職慰労金 | 63 | 50 |
| 退職給付引当金 | 79 | 90 |
| 環境対策引当金 | 6 | 3 |
| その他 | 2 | 9 |
| 固定負債合計 | 3,158 | 3,693 |
| 負債合計 | 11,058 | 12,086 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 2,002 | 2,002 |
| 資本剰余金 | 587 | 587 |
| 利益剰余金 | 5,330 | 5,375 |
| 自己株式 | 67 | 68 |
| 株主資本合計 | 7,853 | 7,897 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 318 | 421 |
| 繰延ヘッジ損益 | 9 | 18 |
| 為替換算調整勘定 | 38 | 201 |
| その他の包括利益累計額合計 | 347 | 604 |
| 新株予約権 | 5 | 5 |
| 少数株主持分 | 948 | 1,211 |
| 純資産合計 | 9,155 | 9,719 |
| 負債純資産合計 | 20,213 | 21,806 |

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(訂正前)

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日) |
|------------------|--|--|
| 売上高 | 12,685 | 13,371 |
| 売上原価 | 10,869 | 11,401 |
| 売上総利益 | 1,816 | 1,969 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,489 | 1,524 |
| 営業利益 | 326 | 445 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息及び配当金 | 19 | 20 |
| 保険配当金 | 26 | 25 |
| 為替差益 | 1 | 39 |
| 受取保険金 | 32 | - |
| 貸倒引当金戻入額 | 45 | - |
| その他 | 30 | 17 |
| 営業外収益合計 | 156 | 102 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 76 | 62 |
| 支払補償費 | 33 | - |
| その他 | 29 | 38 |
| 営業外費用合計 | 139 | 101 |
| 経常利益 | 344 | 446 |
| 特別利益 | | |
| 退職給付信託一部返還に伴う影響額 | - | 9 |
| 投資有価証券償還益 | - | 9 |
| 特別利益合計 | - | 19 |
| 特別損失 | | |
| 減損損失 | 21 | - |
| 特別損失合計 | 21 | - |
| 税金等調整前四半期純利益 | 323 | 465 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 190 | 352 |
| 法人税等調整額 | 123 | 219 |
| 法人税等合計 | 67 | 132 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 256 | 332 |
| 少数株主利益 | 98 | 135 |
| 四半期純利益 | 157 | 197 |

(訂正後)

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日) |
|------------------|--|--|
| 売上高 | 12,685 | 13,371 |
| 売上原価 | 11,020 | 11,381 |
| 売上総利益 | 1,665 | 1,989 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,489 | 1,524 |
| 営業利益 | 175 | 465 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息及び配当金 | 19 | 20 |
| 保険配当金 | 26 | 25 |
| 為替差益 | 1 | 39 |
| 受取保険金 | 32 | - |
| 貸倒引当金戻入額 | 45 | - |
| その他 | 30 | 17 |
| 営業外収益合計 | 156 | 102 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 76 | 62 |
| 支払補償費 | 33 | - |
| その他 | 29 | 38 |
| 営業外費用合計 | 139 | 101 |
| 経常利益 | 193 | 466 |
| 特別利益 | | |
| 退職給付信託一部返還に伴う影響額 | - | 9 |
| 投資有価証券償還益 | - | 9 |
| 特別利益合計 | - | 19 |
| 特別損失 | | |
| 減損損失 | 21 | - |
| 特別損失合計 | 21 | - |
| 税金等調整前四半期純利益 | 172 | 485 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 190 | 352 |
| 法人税等調整額 | 181 | 211 |
| 法人税等合計 | 9 | 140 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 162 | 345 |
| 少数株主利益 | 98 | 135 |
| 四半期純利益 | 64 | 209 |

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(訂正前)

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日) |
|-----------------|--|--|
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 256 | 332 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 39 | 103 |
| 繰延ヘッジ損益 | 0 | 9 |
| 為替換算調整勘定 | 15 | 318 |
| その他の包括利益合計 | 54 | 412 |
| 四半期包括利益 | 201 | 745 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 110 | 454 |
| 少数株主に係る四半期包括利益 | 90 | 291 |

(訂正後)

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日) |
|-----------------|--|--|
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 162 | 345 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 39 | 103 |
| 繰延ヘッジ損益 | 0 | 9 |
| 為替換算調整勘定 | 15 | 318 |
| その他の包括利益合計 | 54 | 412 |
| 四半期包括利益 | 107 | 757 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 16 | 466 |
| 少数株主に係る四半期包括利益 | 90 | 291 |

【注記事項】

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

(訂正前)

・前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 鋳物関連事業 | その他 | 計 | 調整額 (注)1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2 |
|-----------------------|--------|-------|--------|-------------|-------------------------------|
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 10,681 | 2,004 | 12,685 | - | 12,685 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | - | 6 | 6 | 6 | - |
| 計 | 10,681 | 2,010 | 12,691 | 6 | 12,685 |
| セグメント利益 | 736 | 196 | 933 | 589 | 344 |

(注)1. セグメント利益の調整額 5億8千9百万円には、報告セグメント及びその他に帰属しない本社管理部門にかかる費用が 2億2千8百万円、営業外収益が7千8百万円、営業外費用が 2千9百万円及び退職給付会計の数理計算上の差異の償却に係る信託株式の時価変動による損益(は損失)が 4億8百万円含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「鋳物関連事業」セグメントにおいて、売却及び処分意思決定を行った固定資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において21百万円であります。

・当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 鋳物関連事業 | その他 | 計 | 調整額 (注)1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2 |
|-----------------------|--------|-------|--------|-------------|-------------------------------|
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 11,052 | 2,319 | 13,371 | - | 13,371 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | - | 5 | 5 | 5 | - |
| 計 | 11,052 | 2,325 | 13,377 | 5 | 13,371 |
| セグメント利益 | 507 | 228 | 735 | 289 | 446 |

(注)1. セグメント利益の調整額 289百万円には、報告セグメント及びその他に帰属しない本社管理部門にかかる費用が 162百万円、営業外収益が102百万円、営業外費用が 38百万円及び退職給付会計の数理計算上の差異の償却に係る信託株式の時価変動による損益(は損失)が 190百万円含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(訂正後)

・前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 鋳物関連事業 | その他 | 計 | 調整額 (注)1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2 |
|-----------------------|--------|-------|--------|-------------|-------------------------------|
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 10,681 | 2,004 | 12,685 | - | 12,685 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | - | 6 | 6 | 6 | - |
| 計 | 10,681 | 2,010 | 12,691 | 6 | 12,685 |
| セグメント利益 | 593 | 196 | 790 | 597 | 193 |

(注)1. セグメント利益の調整額 5億9千7百万円には、報告セグメント及びその他に帰属しない本社管理部門にかかる費用が 2億2千8百万円、営業外収益が7千8百万円、営業外費用が 2千9百万円及び退職給付会計の数理計算上の差異の償却に係る信託株式の時価変動による損益(は損失)が 4億1千6百万円含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「鋳物関連事業」セグメントにおいて、売却及び処分意思決定を行った固定資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において21百万円であります。

・当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 鋳物関連事業 | その他 | 計 | 調整額 (注)1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2 |
|-----------------------|--------|-------|--------|-------------|-------------------------------|
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 11,052 | 2,319 | 13,371 | - | 13,371 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | - | 5 | 5 | 5 | - |
| 計 | 11,052 | 2,325 | 13,377 | 5 | 13,371 |
| セグメント利益 | 520 | 228 | 748 | 282 | 466 |

(注)1. セグメント利益の調整額 282百万円には、報告セグメント及びその他に帰属しない本社管理部門にかかる費用が 162百万円、営業外収益が102百万円、営業外費用が 38百万円及び退職給付会計の数理計算上の差異の償却に係る信託株式の時価変動による損益(は損失)が 183百万円含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

(訂正前)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日) |
|---|--|--|
| 1株当たり四半期純利益金額 | 4円78銭 | 5円99銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 四半期純利益金額(百万円) | 157 | 197 |
| 普通株主に帰属しない金額(百万円) | - | - |
| 普通株式に係る四半期純利益金額(百万円) | 157 | 197 |
| 普通株式の期中平均株式数(千株) | 33,029 | 33,027 |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要 | - | - |

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(訂正後)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日) |
|---|--|--|
| 1株当たり四半期純利益金額 | 1円95銭 | 6円36銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 四半期純利益金額(百万円) | 64 | 209 |
| 普通株主に帰属しない金額(百万円) | - | - |
| 普通株式に係る四半期純利益金額(百万円) | 64 | 209 |
| 普通株式の期中平均株式数(千株) | 33,029 | 33,027 |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要 | - | - |

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年12月15日

虹技株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

| | | |
|--------------------|-------|------|
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 武田宏之 |
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 石田博信 |

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている虹技株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る訂正後の四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、虹技株式会社及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

四半期報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は、四半期連結財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は、訂正前の四半期連結財務諸表に対して平成26年2月13日に四半期レビュー報告書を提出した。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれておりません。